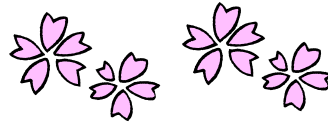


Topic 1

◇今春入試合格体験記 合格者喜びの声

山崎 舞菜さん

- 合格大学：中央大学 経済学部 国際経済学科
- 学校名：秩父高校
- 校舎名：秩父中央校



● 合格を手にしたの感想

私は受験勉強中、模試の成績が思うように上がらず D 判定ばかりでした。モチベーションを保つことが私にとっては一番難しく、つらいことでした。しかし、冬休み頃からセンター試験にかけて自分で成績の伸びを感じました。「現役生は最後まで伸びる」という言葉に半信半疑でしたが、最後までくじけず頑張ったことが良かったと思います。最後は過去問をひたすらやって、志望校の傾向をつかみ直前まで知識を詰め込みました。

● 将来の夢や目標は？

将来の夢はまだはっきりと決まっていませんが、大学では語学に力を入れたいと思います。受験勉強をしている中で、英語をもっとやっておくべきだと思ったので、大学で英語は毎日少しでも触れるようにしたいです。

● 俊英館に入塾して良かったところは？

WEB 授業を活用できました。夏休みには「マドンナ古文」を受講し、入試までにこのレベルまで持っていかなければならないのだと夏の時点で気づけたことは大きかったです。日本史はとても細かいところまで授業でやってくれてノートに書いていったので直前までずっと使っていました。学校の授業だけでは対応できないところもあったので、日本史の講座をとっていたおかげで入試では日本史で点を稼げたと思います。

● 後輩へのアドバイス

1・2年生のうちに英語を毎日やっておくべきだと思います。単語を少しやるだけでも良いので、毎日英語に触れることが大切です。私は高2の途中まで国立志望で苦手な数学ばかりやって英語をおろそかにしていたので、早いうちから英語の長文を読んでおくべきだったと後悔しています。しかし、苦手な数学はつらくとも時間を使って向き合ったおかげで忍耐力がついたと思います。受験には精神力や忍耐力は絶対必要なので、日頃から1つ1つの勉強に全力で取り、組み逃げ出さないことが大切だと思います。塾の映像授業はただ見てノートをとるだけでは何の効果もないので全てをものにする姿勢で映像を見るようにしていました。私は受験の直前期にスランプに陥りましたが、自分の弱点の克服のために時間を費やすことが出来たので、合格することができたと思っています。



4月になり新学期が始まります。だれもがフレッシュな気持ちで新しい学年をスタートさせることと思います。この時期に（特に高1の皆さんから）よく質問されることに「学校の予習の仕方は？」というものがあります。学校によって、教科担当の先生によって、指示内容がまちまちであったり、指導に熱心な先生が自らの担当教科の勉強を強く勧めるなど、悩ましい問題も潜んでいます。

すべての科目について、予習も復習も行うことが理想ですが、現実的には難しいでしょう。**教科の特性をとらえて、教科ごとに予習・復習の重点を変えることで効率よく予習復習ができ全体的に成績を上げることができます。**

◇定期テスト前の勉強だけで良い科目 = 社会(現代社会・地理など), 現代文

知識を詰め込むタイプの科目は、予習は要りません。定期テスト前に集中して暗記を行いましょう。課題プリントがある場合は、それだけはしっかり行いましょう。定期テスト前だけだと暗記が追いつかないという不安がある人は「授業前の休み時間に前回の授業内容を、ノートを見ながら思い出して暗記する」のが良いでしょう。これらの科目は、授業ノートのとり方がポイントです。定期テスト前に復習しやすいノートになるよう、工夫してまとめましょう（東大に合格する生徒のノートは美しいそうです）。



◇復習中心の勉強でも良い科目 = 数学, 理科(物理・化学)

問題を解くことが中心の科目は、復習中心で大丈夫です。授業で理解したことを問題演習に活かして「実際に問題が解けるかどうか？」がポイントになります。授業を受けた後に、学校の問題集をどんどん解きましょう。問題を解いた分だけ、成績が上がると考えてください。予習しないで授業に臨むと全く理解できないという科目であれば予習もしましょう。予習で大事なものは公式の「暗記」ではなく、公式の「理解」です。この公式はどういうことを意味しているのか、どのようにその公式が導かれるのかを「考えること」が予習です。

数学は問題を解くことが中心の科目なので、その意味では復習中心でよいのですが、現実的には「予習せずに授業に臨むと全く理解できない」可能性が大きいため、予習にも十分な時間を割くことをお勧めします。



◇絶対予習が必要な科目 = 英語(文法・読解), 古文, 漢文

辞書を使用する科目は絶対予習が必要です。もしこれらの科目の授業に、予習をしないで臨んだら、理解度・知識の定着度において、予習をして臨んだときと雲泥の差がつきます。予習を欠かさず行いましょう（ただし、私立理系の一般受験しか考えていないという人は、古文・漢文の予習はしなくても良いでしょう）。予習ノートは授業で書き込むことを前提にスペースを多めにとってください。また、予習ノートに単語・熟語の暗記スペースを作るとテスト勉強のときに役立ちます。

【例】英文読解の予習ノートであれば、左ページの左端に分からない単語を書くスペースをとり、右ページの右端にその単語の意味を書くスペースをとると「単語帳」のできあがりです。

中学時代に優秀だった生徒が大学受験に失敗するケースのほとんどが、高1時代の「英文法」をおろそかにした人です。高3になったときに英語が苦手な人は、その克服に膨大な時間を費やさなければなりません。逆に、高1で「英文法」をきちんとマスターしておくと、高2、高3と本当に楽ができますよ。



1 次期指導要領で大学入試はどうか？

2020(H32)年度から小学校で、21(H33)年度から中学校で全面実施となる次期学習指導要領が、3月中に告示される。同じ改訂理念のもと、高校は1年遅れで告示される見通しである。高校については、高大接続改革との両輪で、「明治以来の大改革」と言われるように、大学入試改革に直結していることに注目する必要がある。

高大接続改革をめぐっては、小学校で指導要領が全面実施される2020(H32)年度に、現行の大学入試センター試験に替えて「大学入学希望者学力評価テスト」を実施し、同年度の高3生(現中2生)から受験する方針が決まっており、新年度初頭に公表される予定の実施方針を、関係者は固唾をのんで待っている。

高大接続改革は、高校と大学を通じて、学校教育法で定められた「学力の3要素」、つまり(1)知識・技能 (2)思考力・判断力・表現力 (3)主体性・多様性・協働性を一体的に育て、社会に有意な人材を送り出すことを目指している。学力評価テストが、(1)だけでなく(2)を測定することを追求していること、さらには各大学の個別入試では、(3)も評価すべく多様な選抜方法や資料の活用を求めているのも、そのためである。

日本では大学入試が、若者にとっていわば「通過儀礼」となっている側面がある。もちろん、一定時期の集中的な勉強が、生徒の学力の伸長に大きな効果を及ぼすことは言うまでもない。しかし、入試が終わったとたんに、すっかり忘れてしまうような知識の丸覚えや解法暗記ではなく、アクティブ・ラーニング(AL)を通じて、自分の頭でしっかり考え、現実な課題にも活用できるような知識として定着させることが求められている。それが、高校教育、大学入試、大学教育を一体的に改革する、高大接続改革の眼目である。

2 男子の大学進学率 20年で1.8倍に

総務省統計局が3月10日に発表した「日本の統計2017」によると、平成27年の進学率について、中学校卒業者の高校などへの進学率は98.5%、高校卒業者の大学などへの進学率は男子が52.1%、女子が56.9%。男子の大学等進学率は、平成7年の29.7%から平成17年に45.9%、平成27年に52.1%と増加傾向にあり、20年間で1.8倍に増加した。一方、女子の大学等進学率は、平成7年の45.4%から平成17年に48.6%、平成27年に56.9%と増加傾向にあり、いずれも男子の進学率を上回った。

また、平成27年の大学(学部)卒業生数56万4,035人のうち、進学者は6万2,238人、就職者は40万9,710人であった。平成25年と比べて卒業生数は増えたが、進学者が減少、就職者が増加した。

ReseMom

25-12 進学率と就職率

(単位 %)

年次	中学校		高等学校			
	高等学校等 進学率	就職率	大学等進学率		就職率	
			1)	2)		男
			男	女	男	女
平成7年	96.7	1.5	29.7	45.4	27.9	23.4
12	97.0	1.0	42.6	47.6	20.7	16.5
17	97.6	0.7	45.9	48.6	19.8	14.9
22	98.0	0.4	52.7	55.9	18.4	13.1
25	98.4	0.4	50.9	55.5	20.3	13.6
26	98.4	0.4	51.5	56.1	21.1	13.9
27	98.5	0.4	52.1	56.9	21.5	14.1

「学校基本調査」(5月1日現在)による。各年3月卒業生。1) 高等学校・中等教育学校後期課程・特別支援学校高等部の本科・別科及び高等専門学校への進学率。2) 大学の学部・通信教育部・別科、短期大学の本科・通信教育部・別科及び高等学校・特別支援学校高等部の専攻科への進学率。
資料 文部科学省「学校基本調査報告書(初等中等教育機関 専修学校・各種学校編)」



私立大のほとんどは、複数の入試方式や制度、日程を用意しており、何校でも受験できる点の特徴だ。入試は、2月上旬から中旬をピークとして、3月中旬まで行われる。この間、志望度が高い大学は2月の独自方式でチャレンジし、センター利用方式で併願日程を組み、3月はリベンジを狙う、というのが一般的な受験生の動向だ。

■ 特徴的な制度

[試験日自由選択] 試験日が2~3日連続して設けられていて、その中から受ける日を自由に選択できる。

[学部共通日程] 全学部や複数学部の入試が、同じ日に共通問題で行われる。1回の受験で複数の学部にも併願できる大学もある。

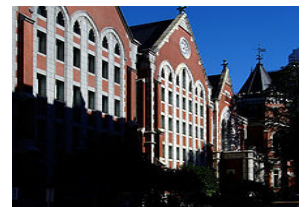
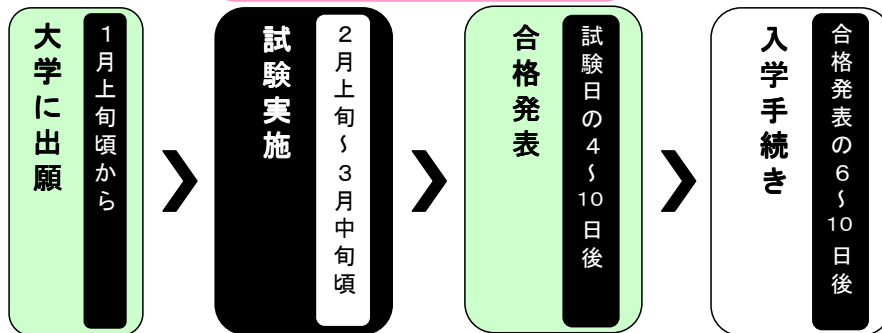
[奨学生入試] 入試で成績上位に入ると授業料などが減免される。減免額は「1年次の授業料全額や半額」や「4年間の授業全額」など様々。

[ネット出願] 導入大学が増えている。大学のホームページで全ての出願手続きが完了する場合や、必要書類は郵送だが出願エントリーはネットで完了する場合など、大学によって様々。

[受験料割引] 同じ大学内で複数出願すると、受験料が割引される。「1学科出願は3万円で、2学科併願すると5万円」など。ネット出願導入校では、ネットで出願すると割引されることもある。

■ 2017年度入試 私立大一般入試のおもなスケジュール

独自方式



センター利用方式

